流山稲門会

## 【交譲葉】俳句の会 報告

令和五年二月句会（第一二九回）

兼 題 ［梅］

開催日 令和五年二月二十五日

開催場所 流山市生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 八名

### （四点句）

●水光り軽鴨遊ぶ春の川　夢 心

**選評**…水面に陽がさして温む川に、軽鴨が何羽も群を成して泳いでいる風景が瞼に浮かびます。実風景を優しく表現し、素直に詠うことが、俳句には最も大切なことであると考えます。作者は、この情景に対して顔がほころんだことと推察します。私も、全く一緒でした。

（艸 寛 記）

### （三点句）

●白梅や狭庭明るく爽気充ち　徹 心

**選評**…かなり大きな白梅の古木であろう、満開になって狭い庭が明るく爽やかな気配に満ちたというのである。一読して情景が浮かび、五・七・五の頭にサ行の韻を集めて調子がよく爽やかである。

（夢 心 記）

●耕して稲株混じり黒き土　夢 心

**選評**…これから苗を植える時期に向かって耕した畑の様子が土の香りまでしてきそうです

近年少なくなった日本の田園風景が淡々と表現してあり素晴らしいと思いました

（則 子 記）

●古寺の苔に座りし実万両　則 子

**選評**…名刹や有名な寺ではないところに目を向けたのが好きです。格調高い日本画の一幅を観ているようです。

（小 牧 記）

●更地なる草の青さや日脚伸ぶ　小牧

**選評**…更地というからには元は雑木林か家の建て替えがあるのでしょうか。まだ気温が低いものの立春を過ぎて日照時間が長くなり、すかさず芽を伸ばす自然のたくましい営みに感動します。

（玄 鳥 記）

### （二点句）

再婚のたより嬉しや梅ひらく　寿 歩

観梅の色どり弁当掴む箸　互 酬

無人家の荒れにし庭に梅の花　夢 心

葉書手に乙女椿の垣根抜け　則 子

小脇より甘夏こぼる帰り道　玄 鳥

梅日和揃いの靴で遠く来ぬ　小 牧

### （一点句）

梅園の艶ある花弁舞て笑む　艸 寛

梅小皿甘納豆になまめけり　玄 鳥

自動車で待ちませんかと寒の雨　寿 歩

白梅や節度を以て満開に　徹 心

### （投 句）

紅梅を愛で惜しむよに友の影　小 牧

梅もまた万葉人が愛でしかな　則 子

梅の香に酔うた心地の偕楽園　徹 心

春訪や更なる安寧恐喝ス　互 酬

用意せし母が一等バレンタイン　寿 歩

辛辣な事言われ薄氷を踏む　互 酬

早緑の鶯餅やそばだてる　玄 鳥

湯たんぽが早朝の足温めり　艸 寛

盆梅が心映して満開に　艸 寛

### 『句会後記』

句会のはじめに、事務局から句集十号が配布されました。十号を手にした皆さんの顔には大きな満足の表情が見られました。私は、いつまでも句会が続くよう、皆さんが健康に長生きし句会が永遠であることを、閉会時に願っていました。お互いに頑張りましょう。

（艸 寛 記）